

門倉先生のご退職に寄せて

藤井 桂子

門倉先生には、同じ生活指導部門の教員として大変お世話になった。先生について驚かされるのはまずカバーされている領域の広さとそのご活躍である。長年携わってこられた日本語教育に関連する分野はもちろんのこと、留学生指導、支援の領域にも深いご理解と見識をお持ちになっている。学外では、日本語教育学会の副会長という重職を務められると同時に、留学生指導研究協議会の代表幹事として国立大学の生活指導担当の教員を束ね、また、日韓プログラムを10年間世話役として牽引された。理解や関心に留まらず、使命感があるからこそ、各分野でリーダーシップを発揮されてきたのだと思う。学内では、委員長として留学生支援小委員会を引っぱり、また留学生ホームカミングデーの実施や海外同窓会の開催で卒業留学生ネットワーク構築の基礎を築かれた。

こうした仕事をなさる一方で、個々の留学生への対応にも熱意をもって取り組まれる。留学生に関わることであれば、どこまでも留学生の立場に立って、サポートしていくこうという姿勢を持たれている。思い切った行動で、留学生の窮地を救ったこともある。そばで見ていてハラハラするようなことも、ご自身にとっては当たり前のことなのかもしれない。留学生について非難めいたことを口にされることはあるほどなく、暖かいまなざしを持ち続けていらっしゃるように思う。

退職後は晴耕雨読ならぬ、晴読雨読の日々を送るつもりだと伺っている。たしかに、門倉研究室の半分は書庫であり、お机の上にもいつも新しい本があふれている。これまでお読みになりたくても読めなかつた本が山とあるに違いない。しかし、留学生教育に関わることで声がかかれば、本の山の中から立ち上がり、行動を起こしてくださるのではないか、そうした折にまたお目にかかる機会があるのではないかと密かに期待している。

最後にこれまでの留学生教育に対するご尽力、また、長い間大変お世話になったことをあらためて心から感謝申し上げたい。ありがとうございます。